

ず〜っと岩沼



P1…表紙のとりくみピックアップ（稲荷町町内会）

P2…玉浦小学校学区 寺島お茶っこ会 P3…岩沼西小学校学区 平等団地ラジオ体操

P4…岩沼南小学校学区 クリニック沿道のひまわり畑 P5…岩沼小学校学区 クレマチスの会

P6…つながりを作る活動紹介 P7…生活支援体制整備事業紹介

「ず〜っと岩沼」は

生活支援体制整備事業の一環として、高齢者の生活を支える地域の取組をお伝えする情報誌です

誰もがいくつになっても住み慣れた地域で暮らし続けるため、地域における様々な活動が注目されています。

通いの場となるサロン等の活動や地域の見守り活動は、介護保険制度等の公的サービスとともに高齢者の生活を支える大切な活動となっています。

今号は、感染症流行のため活動が困難となっていた地域が、つながりをどのように持ち続けていたか、つながり作りや支え合いのための活動について特集しています。

表紙のとりにくみピックアップ！



～稲荷町町内会 秋のレクリエーション～

10月1日(日)稲荷町公会堂において「秋のレクリエーション」と題し、稲荷町町内会で地域の方より寄贈された物品のオークション、バーベキュー会が行われました。

同町内会は現在、岩沼市社会福祉協議会(以下社協)の「町内会連携地域福祉活動モデル事業」の指定を受けている町内会です。

今回のレクリエーションは若い世代も巻き込みたい、という齋享町内会長(左上写真)の熱い思いのもと実施されました。今後の活動には必ず若い力が必要、と若い世代が話す機会を設定したり、参加できなかった方には、声かけ訪問を行ったり、と町内全体に目を向けて活動されています。

「稲荷町地区は、世帯数は少ないが、若い世代も少しずつ移り住んできている。世代が変わっても活動を続けていけるように」(齋町内会長より) 今後を見据えながら、町内会長を中心に、他の地域ともつながれるよう様々な取組を行っていく予定です。





玉浦小学校学区

やっぱりみんなでお茶飲みすっぺ ～寺島お茶っこ会～

寺島地区は阿武隈川下流部に位置し、震災前も震災後も変わらず地域の結びつきが強い地域です。

「寺島お茶っこ会」は寺島公会堂を利用し、地域住民が集う場として震災後に活動を始めました。

サロン運営のための協力体制が整わず、活動休止の期間が続いていましたが、活動再開の転機となったのが「コロナで誰とも顔を合わせる機会がなくなってしまった」という地域の方の声が上がったことでした。

相談を受けたマリホーム地域包括支援センター(以下マリ包括)が集いの場再開に向けた話し合いの機会を設けたところ、「公会堂の入口に段差があり、高齢者は上り下りをするのも一苦労」との意見があり、環境整備をする必要があることが分かりました。

そこで、町内会長や副会長に相談すると、町内会で整備していただけることになり、手作りのステップ・手すりが入口につき、段差の解消に繋がりました。

段差解消の成果もあり、今年の4月からは毎月、地域の集いの場として活動を再開しています。内容は、マリ包括のアドバイスを受けながら決めており、社協ボランティアを活用した折り紙教室など月ごとに様々です。

寺島ならではの、たくさんの食べ物(特につけもの)の持ち込みもあり、にぎやかな本来のお茶っこ会の姿に近づいてきています。

地域で集いの場を継続していくことを目標に、活動を行っています。

→手作りのステップ・手すりがついた公会堂入口



地域の声ピックアップ ～笑顔とつけものがたくさんのお茶っこ会に～

「みんなで会うのが一番の目的。会えば笑顔になれるよね。」(お茶っこ会会計 菅原さん)
集まって笑い合うこと、美味しい物を一緒に食べること。コロナ禍で失われていた時間を取り戻すように、月1回のお茶っこ会を参加者の皆さんが心待ちにしている様子が伺えました。



平等団地を元気にしたい！ ～ラジオ体操から始めよう～

岩沼西小学校学区

高齢化率が高い地域である平等団地。

団地入居時は、新興住宅地として子育て世代が多数を占めていましたが、現在は約半数が高齢世帯となっています。

集会所は比較的団地の中でも低い場所にあり、高低差が大きい団地内で、集会所まで降りて来れない、集まることができない、と地域の中でも足の問題がでていました。

また、コロナ禍で活動を停止していた老人クラブがなかなか活動再開できずにいる、という課題もあり、西地域包括支援センター（以下西包括）を核に、町内会役員・老人クラブ、地域活動者有志を交えて地域課題について話し合う場を持つこととなりました。

「集会所まで降りて来ることが難しい人のために、高い場所にある公園で、みんなが集まることができないか。まずは、ラジオ体操から始めてはどうか」

「町内会も子ども会も巻き込んだ活動にしたいね」と意見が交わされた結果、町内会の回覧板で周知を行い、9月より公園でラジオ体操を行うことになりました。

現在は西包括が活動を応援する形で、月1回（原則第2月曜日）定期開催予定となり、地域に根付き始めたラジオ体操。平等団地が元気になるきっかけになるよう町内全体が力を合わせています。

地域の声ピックアップ ～ラジオ体操が顔を合わせるきっかけに～

「久しぶり！こうやって集まるのっていいね」（参加者より）

月1回のラジオ体操が地域の方々が久しぶりに会うきっかけづくりとなりました。体操後のおしゃべりもお楽しみの時間になっています。



岩沼南小学校学区

クリニックの沿道が地域の憩いの場に ～地域とつながるひまわり畑～

押分地区にある「なかやま整形外科クリニック」。クリニックの沿道に、スタッフの方がひまわりを植えたことをきっかけに、地域住民とのつながりが生まれました。

始まりはクリニックが開院した9年前、なかなか根付かないひまわりを見た、地域にお住いの庄司栄五郎さん(写真右下)が土壌改良を行っていただきました。

土壌改良後も、スタッフの方に協力し、庄司さんが花や沿道の手入れを継続して行ってくださり、毎年、夏はたくさんのひまわりが沿道を彩るようになりました。

ひまわり畑が産んだクリニックと庄司さんとの絆は、地域との良い関係性にもつながっています。見事に咲いたひまわりを見に近所の保育園児たちが散歩がてら見に来たり、通院している地域の方の心を和ませています。

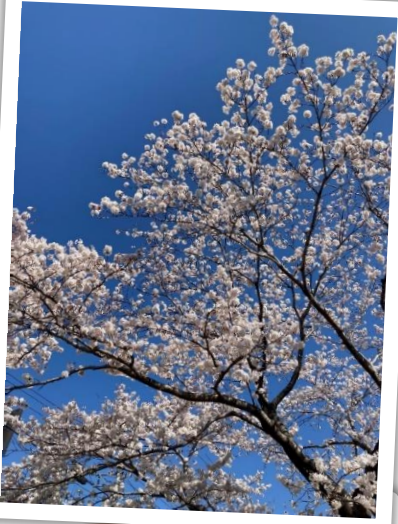
「私たちが地域の方に支えられています」
(中山広明院長より)

クリニック内は、地域の方が作った作品があちこちに飾られています。地域を支えるかかりつけ医としての役割だけでなく、地域の方々に支えられる憩いの場として、クリニックが根付いている様子が伺えます。

地域の声ピックアップ ～地域の方の笑顔がボランティア活動の原動力に～

「ひまわりの時期は通る人みんな花を見て行っている。花を見て癒されない人はいないでしょう」(押分住民 庄司栄五郎さん)

沿道に植えたひまわりを少しでも長く地域の方に楽しんでもらえるように、種類の異なる花を交互に植えたり、と様々な工夫をされていた庄司さん。現在は土をきれいにし、次の種まきの時期のスタンバイ中です。冬の時期は雪かきの手伝いも行ってくれており、地域のために活躍し続けている方です。



集会所がなくてもみんなで集まりたい！ ～クレマチスの会～

岩沼小学校学区

岩沼市の中心部に位置する中央地区。昔ながらの商店が立ち並ぶ地域です。

駅から近く、利便性が高い一方で、地域住民の方の声を伺うと、必ず「集まる場所(集会所)がない」と課題が上がっています。

集会所問題を自分たちで何とかしよう、と中央一丁目第三町内会(中央一丁目三和会)の婦人部が中心となり、町内会長宅を利用した集まりが「クレマチスの会」です。

立ち上げ当時は社協の助成を受けていましたが、現在は自主財源で運営しています。

コロナ禍で一旦「お茶飲みをして集うのは」と活動を休止している時期もありましたが、

健康づくりのため、と週に1回ラジオ体操から集うことを再開し、現在はラジオ体操に加え月に1回、手作業やお茶飲みをしています。

お互いを気にかけて合う関係性を築くことができているため、会の活動再開はスムーズで、活動休止した時間を埋めるように、集まるたびにお喋りが止まらない様子です。

「手も口も体も動かすのが大切」と、お喋りしながら、みんなで次の作品作りを考えることが楽しみとなっています。

女性が中心ではありますが、「女性の元気が町内の元気につながる」と男性陣も活動を応援しています。

地域の活動ピックアップ ～地域の活動の花を咲かす桜の木～

町内会長宅に植えられている桜の木(写真左上)も町内会の集まりに貢献しています！満開の桜の時期は桜を見ながらお花見、が町内会の活動の一環となっています。



島貫 正さん

通いの場所につなげたい!

運転ボランティアヒーロー



島貫さんは現在、南東北地域包括支援センターが実施している認知症ふれあいカフェの運転ボランティアとして活躍しています。

社協にボランティア登録し、活動していた島貫さん。バス運転手として勤めていた経験を活かし、会場まで歩いて行くことができず、外に出るきっかけを失ってしまった方、認知症の進行により会場まで一人で向かうことができない方を対象に、自宅から会場まで、送迎を行ってくださっています。

「外に出ているんな人と交流するのは大切なことだと感じている。自分が送迎をすることで、閉じこもっている高齢者が外に出るきっかけを作りたい。ちょっとした社会貢献だよ」と島貫さん。

交通手段がないから通いの場に参加できない、という問題はどこの地域にもあり、解決すべき課題となっています。島貫さんの活動が他の地域にも広がっていき、通いの場にいきいきと参加できる方が一人でも増えていくまちになればよいですね。



↑ 乗り降りの際も
優しくエスコート

↑ 「送迎でここに来ることが
できて助かったよ」の声に
笑顔になる島貫さん

地域でお役立ち☆

つながり広げる場所・もの コレクション



～ボッチャ～

ボッチャは重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のためにヨーロッパで考案されたスポーツです。ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ 6 球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツです。

近年では障害の有無に関わらず、老若男女、誰でも楽しむことができるスポーツとして注目されています。(日本パラスポーツ協会 HP 参考)

ここ数年、老人クラブを中心に岩沼市内でもボッチャの輪が広がってきています。岩沼市老人クラブ連合会(市老連)でボッチャ一式を無料貸出していることもあり、老人クラブだけでなく、集いの場や子どもが参加する催しでもボッチャを楽しむ機会が増えています。世代間交流にも持ってこいのボッチャ。ぜひ地域でご活用ください。

【貸出に関する問い合わせ…岩沼市老人クラブ連合会(岩沼社協内) 29-3711】



↑ マットを使用した簡易ルールでも
遊ぶことができます!

(竹駒長寿会と本町子ども会交流の様子)

生活支援体制整備事業とは？

生活支援コーディネーターの配置と、協議体の開催を通して

①

②

高齢者が暮らしやすい地域をみんなで考えてつくっていくこと

① 生活支援コーディネーターとは = 支え合いの輪をつくるつなぎ役

「高齢になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために」地域で生きがいや役割を持ち自分らしい生活を送ることができるようにお手伝いするのが生活支援コーディネーターです。

② 協議体とは = 支え合いの輪をつくる話し合いの場

地域住民、町内会、民生委員・児童委員、民間企業、行政、地域包括支援センター、社会福祉協議会など様々な役割の人が集まり、高齢者が生活を送る上で地域の気になる事や課題解決にむけた話し合いを行います。



第二層生活支援
コーディネーターが
お手伝いした協議体事例
←P2 寺島お茶っこ会
再開に向けて(マリン包括)
→P3平等団地ラジオ体操
開催について(西包括)



第一層生活支援コーディネーター（社会福祉法人 岩沼市社会福祉協議会）

〒989-2427 岩沼市里の杜三丁目4番15号 TEL 0223-29-3711 / FAX 0223-29-3341

第二層生活支援コーディネーター(各小学校区ごとに設置された包括支援センターに配置)

岩沼西小学校区

岩沼西地域包括支援センター

業務委託 社会福祉法人 敬長福祉会
〒989-5459 岩沼市たけくま三丁目6番8号
TEL 0223-36-7266 / FAX 0223-23-3755

岩沼小学校区

岩沼市社会福祉協議会地域包括支援センター

業務委託 社会福祉法人 岩沼市社会福祉協議会
〒989-2432 岩沼市中央一丁目4番27号
TEL 0223-25-6834 / FAX 0223-25-4332

岩沼南小学校区

南東北地域包括支援センター

業務委託 社会医療法人 将道会
〒989-2427 岩沼市里の杜一丁目2番6号
TEL 0223-23-7543 / FAX 0223-23-5665

玉浦小学校区

マリンホーム地域包括支援センター

業務委託 社会福祉法人 ライフケア赤井江
〒989-2429 岩沼市恵み野一丁目7番地の1
TEL 0223-25-6656 / FAX 0223-22-1271